林産試験場利用部微生物グループ　令和２年度北海道特用林産振興懇談会資料（R3.3.26）

グループを取り巻く状況

1. 北海道の主要きのこの生産量は17,622トン(R1)で全国の約4%、生産量は国内が2.5%減、道内は5%減

→ 道内の生産額は約126億円(キクラゲ22億加算のため)に増加(ﾏｲﾀｹ，ﾀﾓｷﾞ増，ｼｲﾀｹ，ﾌﾞﾅ，ｴﾉｷ等は減)

道内(国内)のきのこの価格はR1以降やや改善傾向を見込む　→　コロナ禍による需要増

→　販売方法や生産調整に留意する生産者（首都圏等道外における販売戦略強化、用途開発）

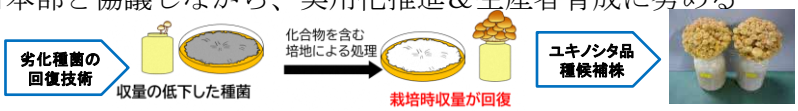
中国産菌床の導入増加、人件費高騰→競争力強化のため、道産シイタケの高品質化と省力化を目指す

2. おが粉価格等資材費は上昇傾向、原油は不安定→代替え材料等の模索、廃菌床の活用等の検討
3. きのこ生産者は減少傾向継続　・・・ R1：155名(前年比-11人、シイタケ菌床と原木生産者等減少)

→余剰労働力の活用や省力化を図る等異業種参入を促す（兼業経営の推奨）

4. 夫婦共働き、単身世帯＆高齢者世帯増 → 調理の簡便化、保存性向上、加工食品需要増（給食は減）
5. 高齢化、生活習慣病予防、食品の安全性etc　→　治療から予防医療へ、コロナ感染症により健康機能性とそのエビデンスへの関心（機能性表示等）、国がJ-GAP 認証推進（安全＆安心）
6. 開発品種の許諾契約＆普及→道庁＆道総研本部と協議しながら、実用化推進＆生産者育成に努める

最近の研究動向・主な成果



○終了　・(科研30-R2)　(課題名等非公開)　・種菌劣化メカニズムの解析、劣化対策技術を確立する

・(共研R1- 2)（課題名等非公開）・・新規機能性食品素材の開発

・(共研R1- 2)（課題名等非公開）・・飼料開発

○継続　・(経常R1- 3)野生型エノキタケの新品種開発・・「えぞ雪の下」新品種を開発・品種登録申請

○新規　・(戦略R2- 6)近未来の社会構造や環境・・出汁の開発とｼｲﾀｹ生産技術の省力化の検討を進める

・(重点R2- 4)木質飼料の多様化・・・木質飼料の原料樹種と適用家畜拡大を図る

・(共研　R2)未利用道産食材・・・・・・ シイタケ生産時の副産物を有効活用する技術開発

○次新規・(経常ｺR3-6)マツタケ菌根苗安定生産・・林地移植に向けた菌根苗の大量生産技術を開発する

・(経常R3- 5)ヤナギ類樹木を活用した・・ヤナギ類樹木に適応するきのこ種の拡大等用途開発

・(奨励R3)きのこ遺伝子発現解析・・・きのこの収量マーカーの開発を目指す

今後の展開方向・展開方針等

○取り巻く状況の

１～３に対し・さらなる生産コストの低減・生産性向上技術の追求(省力化，ヤナギ・廃菌床利用)

・きのこの差別化　→　既存品目の特徴付け(味、機能性、品質等)、表示制度利用

→　新品目に関する情報収集と価値向上を図る栽培技術の開発

・飼料化等廃菌床の有効利用や処理技術に関する情報収集

４～５に対し・機能性関連情報収集（例 免疫増強等)、有用成分の増加・変換技術、素材化技術

・加工・健康食品への活用方法検討(食加研と連携)　・エビデンスの蓄積（大学と連携）

６に対し　・種菌メーカ等との連携を図り、許諾契約や普及を進める。

・管理の徹底（劣化防止技術）、きのこ生産・消費振興会と連携、道内生産者の育成

○講演発表、技術相談等をきっかけに、きのこ栽培等のノウハウの蓄積や保有品種＆特許等をPR